

「学校教育目標」と「令和4年度重点目標」に向けて 温かな人間関係の中で生き生きと自主的に活動し、持続可能な社会 の創り手として、課題を解決することができる生徒の育成

目指す
生徒像

- ☆自ら考え、学び、自他の良さに気付く生徒
- ☆自らの考え・主張を自分の言葉で伝えられる生徒
- ☆お互いに認め合い、助け合う生徒
- ☆将来の夢や希望を持ち、自主的にその実現のために努力できる生徒
- 重点目標 ☆よさに気付く力(創造) ☆伝える力(発信) ☆関わる力(協働) ☆挑戦し、やり抜く力(挑戦)

豊かな人間性 【温かな人間関係】

思いやりがあり、他と優しいかかわり合いができる心の育成
何事にも粘り強く立ち向かう心の育成
互いの良さを認め合い、生かしていく人間関係の構築
自発的・自動的な活動を通して、積極的な社会参画意識の醸成

健康・体力 【持続可能な社会の創り手】

健康の保持増進と体力の向上を目指す
生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現を目指す
生涯を通じて心身の健康の保持・増進を目指すとともに、疾病のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりを目指す

資質・能力の育成

確かな学力 【課題解決能力】

何ができるようになるか

- 学校教育の基本（育成を目指す資質・能力）
 - ・学んだことを自分の言葉で表現したり、実生活の中で活かしたりできる
 - ・人の思いを感じ、他を思いやる発言ができる
 - ・持続可能な社会の創り手として、問題を解決することができる
 - ・Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力を育成する

子どもの実態

- ・真面目に学習に取り組む生徒は多い
- ・基礎基本の定着が不十分
- ・自分の言葉で表現、伝えることに課題あり
- ・粘り強く取り組むことが苦手
- ・人間関係構築能力に課題あり

子どもたちの発達をどのように支援するか

- 特別な支援・配慮を必要とする子どもへの指導【P B S】
 - ・全教職員がP B Sを理解し、望ましい行動に注目し、ほめる・認める・励ますを繰り返すことで、望ましい行動を増やす。『心理的安全性の確保』

何が身に付いたか

- 学習評価を通じた学習指導の改善
 - ・生徒自身が自ら学習した内容を振り返る
 - ・粘り強く取り組むことで学びの深化を促す
 - ・キャリアプランニング能力を高め、夢や目標にチャレンジする
 - ・教科横断的な学習活動を通して汎用能力の習得

目指す子どもの姿

- ・学び合いの中から、自他の良さに気付く生徒
- ・自らの考えや主張を自分の言葉で伝えられる生徒
- ・お互いを認め合い、助け合うことができる生徒
- ・将来の自身の姿を見据え、夢や希望に向かって努力し、やりとげることができる生徒

何を学ぶか

- 教育課程の編成
 - ・各教科の基礎基本を大切にした学習内容を学ぶ
 - ・総合的な学習を中心として、各教科を横断的に学ぶことができる教育課程を編成する【STEAM 教育】
 - ・合意形成、意思決定
 - ・特別活動の充実

どのように学ぶか

- 指導計画と授業改善・充実（総合的な学習の時間を要にして）
 - ・3年間で身に付ける内容を系統立てて、見通しをもって学ぶ
 - ・他者との学び合いから、自分の考えをさらに深められるように学ぶ
 - ・自ら課題を設定し、その課題を解決できるように学ぶ
 - ・社会・地域など実社会とのつながりを意識した実践課題を設定【STEAM 教育】

実施するために何が必要か

- 授業改善、指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働
 - ・校内研究会の充実
 - ・地域や家庭、関係機関との連携・協働

安心・安全を守る

- ・いじめ防止基本方針の策定
- ・避難訓練の定期的な実施と工夫改善
- ・計画的な安全点検

開かれた学校づくり（学校運営協議会制度）

- ・メール配信やホームページ等を活用した学校情報の公開
- ・各種行事を通した地域・家庭との連携
- ・学校公開の充実
- ・校区小学校との連携

- 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
 - ・教育課程全体で育成したい資質・能力が高まっていくように各教科の授業における学習過程を工夫する

- ・各教科での「見方・考え方」を全教職員で共通理解し、各教科等の単元で身に付けた資質・能力が一層汎用的な力として磨かれていくよう、単元間や学年間、教科間といった縦・横のつながりを意識した指導計画を立てる